

## 昭和 63 年度研究功労賞推薦書

受賞対象者 秋元 波留夫 先生

秋元波留夫先生の神経精神医学におかれる学究生活は 60 年におよび、この間、基礎ならびに臨床てんかん学は、先生にとって一貫したテーマでありました。

金沢大学と東京大学では、精神医学教室を主宰され、実験てんかんとくに大脳皮質と視床の機能的関連について、数多くの優れた研究を指導されるかたわら、昭和 41 年には今日の「日本てんかん学会」の前身である「日本てんかん研究会」を創立され、以後 15 年間、会長の任をつとめられました。また昭和 56 年には、「国際てんかん学会議一 1981 年」をわが国に誘致し、同会議の会長の任を果たされました。アジアで始めて開かれたこの京都会議の成果は、今日も高く評価されています。

基礎・臨床を問わず、「てんかん学」には学際的協調が求められるところであり、斯学が先生の指導性に負うところ大なるものがあります。昭和 50 年には、当時の国立武蔵療養所に「てんかん診療科」を設立され、これが今日の静岡東病院をはじめとするわが国のてんかんセンターの礎となっております。

先生は、数多くのてんかんに関する学術論文を加えて、てんかんの包括医療の今日のまとめとして、昭和 59 年に単本「てんかん学」、昭和 61 年には「てんかん学の進歩」の編集にあたられ、また昭和 61 年には日本てんかん協会から「てんかん制圧の行動計画」の刊行の任にあたられました。これらは、先生の永年にわたるてんかん学にたいする情熱と造詣の深さを物語るものであります。